



全国各地で新型コロナウイルスが猛威を振るっており、第8波へ突入したと言われる現在、東通村ではどのような医療がとめられているのか、今後どうなっていくべきなのかを特集します。

東通村診療所の濱近医師は東通村の医療が抱えている問題について「高血圧、糖尿病をはじめとした生活習慣病の方が多くと感じました。これらの疾患は自覚症状がなくとも、心筋梗塞・脳卒中・失明・透析など、生命にかかわる病気を引き起こしたり、生活の質を著しく低下させる病気につながります。車での移動が多いため、運動不足であること（小児も含め）などが解決すべき問題だと考えます」と話してくださいました。

東通村は、過疎地であり、面積も広く公共の交通機関が普及していないという背景から、一家に一台ではなく一人一台車を保有しています。そのため、移動手段も必然的に車が多くなり、運動不足になってしまっていると思います。

濱近医師は「小児にも肥満の子が意外と多く、保護者の方と食生活や運動習慣について相談する場を作っていききたいと考えています。お米中心の食生活の方が多くなので、糖尿病が多くなってしまうと思います。もちろんそれだけではなく、思春期のメンタルヘルスなどについても、専門機関との橋渡しをしていけたらと思っていますので、どんな相談でも気軽に診療所へお越しくださいたいと思います」と子供に関することについても話してくださいました。



IP電話を利用し電話診察をする濱近医師